



柵越しの哺乳。子牛は草原はずれの小屋で飼われており、母牛がときどき訪れて柵越しに哺乳していた。現在は乳離れした=6月27日、八ヶ岳中央農業実践大学校

## 草原で牛乳を搾っています

今年6月から、顔がしゃくれ、毛色が茶色から黒褐色をした小型のウシを昼夜を問わず大学校の草原に放して飼っています。午後2時頃にそれらのウシを草原はずれの一か所に集め、牛乳を搾っています。当然、お母さんにならないければミルクは出ませんので、子牛がいます。子牛は草原はずれの小屋で飼われており、母牛が時々訪れて柵越しに哺乳をしています。ウシの母子関係はヤギと同じ「置き去り型」なので、子牛は

お腹がすかない限り母牛を呼びません。子牛と平々に分けるようにミルクを搾っています。一日7〜8時間も草を食べているので、市販の牛乳と比べてビタミンAの原料であるβ-カロテン(草の赤橙色)や免疫機能を高め、体脂肪を減らす効果がある共役リノール酸が豊富に含まれています。放牧牛乳には草に含まれる緑の天然色素(クロロフィル)からくるニオイが含まれるのが最大の特徴です。飲んだ時、わかるかな?

広大な牧草地で放牧されているジャージー牛。一日7〜8時間も草を食べている。4月27日、八ヶ岳中央農業実践大学校

# 八ヶ岳山麓 ウシ編 動物ふれあい日記

## 1 ジャージー牛を昼夜放牧



ジャージー牛の放牧風景=6月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校



放牧地に設置された搾乳施設でジャージー牛の搾乳を行う同校職員で飼育担当の菊島永詞さん(右から2人目)と石原直子さん(左端)。同校の学生たちも搾乳を学んでいる。7月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校

### 佐藤衆介(さとう・しゅうすけ)

1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に就任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ヶ岳中央農業実践大学校(原村)の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」(東京大学出版会、2005)など。



牛は舌で草を絡めとる食べ方をする。7月24日、八ヶ岳中央農業実践大学校